

# ソフトテニスの競技継続に関する研究

スポーツマーケティングゼミナール 1315051 平山 直輝

## 1. 研究動機・研究目的

ソフトテニスでは中学校での部活加入者数が例年 40 万人前後であり、競技人口が多い競技であると言える。しかし、中学から高校に進学するタイミングでの部活動加入者数は 8 万人前後と、部活動を継続する人数が約 5 分の 1 に減少しており、ソフトテニス部活動の加入者数は大きく減少している(日本ソフトテニス連盟)。ソフトテニスの競技人口の減少は、競技の発展において大きな問題であると言える。このような問題点を解決するために、ソフトテニス部活動継続者の部活動継続理由を明らかにすることは、今後のソフトテニス部活動の競技人口の維持につながると考えられる。

本研究では、ソフトテニスをこれまで継続してきた理由や背景、辞めることを検討した理由、それでも辞めなかった理由や背景を質的研究によって明らかにすることを目的とした。

## 2. 研究方法

本研究では、大学生ソフトテニス部員(5名)に対して、これまでの経験についてのインタビュー調査をおこなった。インタビュー調査の方法は、半構造化インタビュー調査をおこない、文字データに起こした。その後、修正版グラントッド・セオリー・アプローチ(M-GTA)の枠組みを参考に、共通する体験などを抽出し、カテゴリーに分類し、大学までソフトテニスを継続してきたストーリーラインを作成した。

## 3. 主な結果と考察

ソフトテニスを始めた理由やきっかけは、他者からの影響による入部、類似の部活動との迷い、仕方なく入部の3つの概念に分けられた。また、これまでのソフトテニスを行う環境は、各経歴や学校の特色により様々であった。挫折しそうになった経験は、キャプテンの責任、他者との比較、試合での敗戦と、自身だけでは解決することが難しい問題であり、個人の価値観や基準によっても変動するものであった。ソフトテニスを辞めたいと思った理由は、挫折しそうになった経験と被る部分が多く、挫折経験と同様に、個人だけの解決は難しい問題であることが示唆された。ソフトテニスを辞めずに継続できた理由としては、勝利への強い思いと恩師や家族への感謝など周囲からの影響が大きいことが推察された。今回の調査対象者5名のうち4名が「他者への感謝」がソフトテニスの継続理由であったことから、大学現在まで競技を継続している理由として、勝利への強い思いを持ちながら、周囲からの支えを受けているということを深く理解しているためであることが推察された。

## 4. 結論

被験者らが挫折しそうになった時に、ソフトテニスを辞めずに継続できた理由は、周囲の影響と勝利への思いが大きかった。厳しい指導者のもとでソフトテニスを継続している時は、競技継続に対してネガティブに働くが、進学により卒業後は、感謝や尊敬の念を持ち「恩師」

となることがわかった。ソフトテニスの競技人口を維持するためには、重要な他者との出会いと本人の勝利への思いが大切であり、挫折しそうな部員がいた場合には、他者の積極的なサポートが重要になるであろう。また、個人としてもソフトテニスをおこなう目標・目的をしっかりと定めることが競技継続のためには大切であることが考えられる。

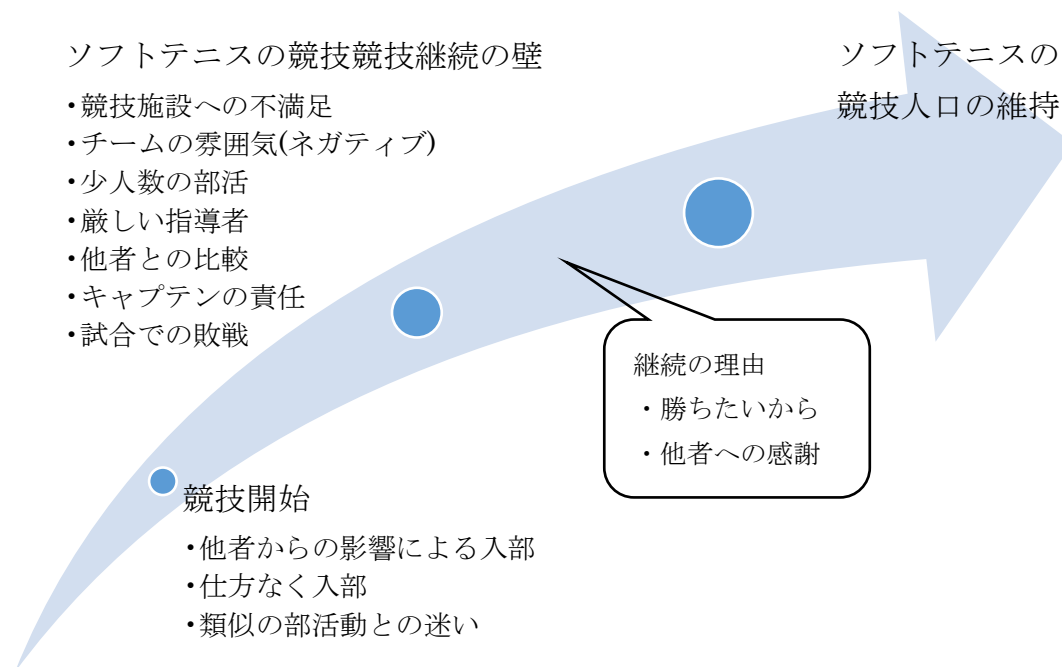


図. ソフトテニスの競技継続の流れ

## 5. 卒業論文の執筆を終えて

卒業論文の作成にあたり、お忙しい中、卒業論文指導の時間を何度もつくっていただき、丁寧に指導してくださいました。工藤康宏教授に深く感謝いたします。

また、部活動で忙しいところ、調査を引き受けてくださった順天堂大学ソフトテニス部のみなさん。最後まで教え合いながら協力して卒業論文を書き上げたスポーツマーケティングゼミナールのゼミ員のみなさん。また、その他たくさんの方々のおかげで無事論文を書き上げることができました。

2年間のスポーツマーケティングゼミナールの活動の中からは、卒業論文の執筆に関すること以外にも多くのことを学ばせていただきました。本当にありがとうございました。

研究をおこなうにあたって、多くの人に支えられ、一緒に頑張る仲間がいることの大切さを実感しました。研究に携わってくださったすべての方々に感謝いたします。

## 主な引用参考文献

- 公益財団法人日本ソフトテニス連盟 (2018)「加盟校調査」
- 公益財団法人全国高等学校体育連盟 (2018)「統計資料」
- 公益財団法人日本中学校体育連盟 (2018)「ソフトテニスとは」
- 青木邦男 (1989)「高校運動部員の部活動継続と退部に影響する要因」